

「鹿児島県の近現代」教育研究センター

近現代センター通信

第6号 2025年9月

—目次—

令和7年春のシンポジウム（伴野文亮）	1	像台座の銃弾痕（小林善仁）	5
中学生への体験講義・キャンパスツアーの実施（松田忠大）	2	五代家の墓碑銘について（友野春久）	8
令和6年度地域マネジメント教育研究プロジェクト報告会（日高優介）	3	鹿児島県伝統の音文化 薩摩琵琶の継承 最前線（原田敬子）	12
令和7年度地域マネジメントマネプロジェクト一覧	4	再録・中島馨「雪のサンタマリアの奇蹟」（鈴木優作）	13
鹿児島大学の戦争の爪痕－「玉利喜造先生」銅		寄贈資料・今後の予定	17

令和7年春のシンポジウム「〈#昭和100年〉で考える「鹿児島県の近現代」—食文化・鉄道・遊びにみる“つながり”の歴史と未来—」を開催しました

「鹿児島県の近現代」教育研究センター 特任准教授 伴野 文亮

2025年3月22日（土）に鹿児島大学学習交流プラザ学習交流ホールにおいて、令和7年春のシンポジウム「〈#昭和100年〉で考える「鹿児島県の近現代」—食文化・鉄道・遊びにみる“つながり”の歴史と未来—」を開催しました。当日は、YouTube ライブによる同時配信も行い、対面・オンラインあわせて120名ほどの方々にご参加いただきました。

今回のテーマは、「食文化」「鉄道」「遊び」という3点に着目して〈昭和100年〉の間における人びとの“つながり”の諸相と変遷を確認し、様々な場面で「分断」が進行する現代を生きるための知見の共有を試みるというものでした。「食文化」のパートでは、正岡佑月氏（法文学部4年生）による研究発表と、千葉しのぶ氏（NPO法人霧島食育研究会理事長、千葉しのぶ鹿児島食文化スタジオ代表）による講演がなされました。「鉄道」のパートでは、山本尚昌氏（法文学部2年生）と鹿児島大学乗り物研究

会、および鹿児島県立大島高校生徒による研究発表と、榎木郁朗氏（宮崎市史編さん事業近現代史部会長、宮崎歴史資料ネットワーク副代表）による講演がなされました。「遊び」のパートでは、鹿児島県立錦江湾高校生徒による探究成果の発表がなされたほか、伴野が講演を行いました。また、同一会場において、鹿児島県内にある高校の生徒による「総合的な学習（探究）」の成果のポスター発表も実施しました。

今回のシンポジウムには、10代から70代以上までの幅広い年代の方にご参加いただきました。閉会後のアンケートでは、「様々な分野において、鹿児島や周辺地域の近現代の状況を知ることができた」といった意見や、「大学生や高校生の発表もあるなど、次世代の人への探究も企画されていた」といった高校生・大学生による発表の機会を設けたことに対する評価など、多くの方から高評価を得ることが出来ました。